

# 支えるために



## 職場で変化に気付いたとき

本人による、いつもの自分とちがっているという訴えや、職場の同僚、または上司などが職員の変化に気付いた時、早めに産業医に相談し、認知症の専門医の受診につなげることが必要です。また、産業医は、本人と職場の間立って、若年認知症を早期に発見し、本人と職場に適切な助言と支援を行うことが求められます。

## 受診・診断はどうすれば？

若年認知症の検査と診断を受けるには、専門の医療機関を受診し、診察、検査を受けます。



### ～早期診断と早期治療の機会を逃さないために～

医療機関にかかったとしても、初期の症状の現れ方などにより、専門でない診療科を転々とし、診断が遅れることもあります。誤った診断のまま、認知機能障害が目立つようになって、ようやく若年認知症と診断されたものの、早期治療の機会を逃してしまうこともありますので、まず、専門医を受診しましょう。



## 相談窓口

- 行政の保健福祉相談・申請窓口**  
 若年認知症の方が、精神障害者保健福祉手帳を受けたり、介護保険の要介護認定を受けることにより、障害者福祉のサービスや介護保険のサービスを利用したり、税の軽減、公共料金等の割引などを受けることができます。  
 相談、申請の窓口は、お住まいの市町の保健福祉の担当課（障害福祉・介護保険担当課）となります。
- 地域包括支援センター**  
 地域の高齢者等の皆さんが、いつまでも住み慣れた地域で自分らしくいきいきと生活していけるよう、介護・福祉・保健など、さまざまな面から総合的に支えるため設けられた地域包括支援センターでは、認知症など介護に関する相談や心配ごとなど、さまざまな相談に応じています。  
**<地域包括支援センター一覧>**  
 県元気長寿福祉ホームページの「老人福祉施設等一覧」に掲載しています。  
<http://www.pref.shiga.jp/e/lacadia/index.html>
- 公益社団法人 認知症の人と家族の会 滋賀県支部「もの忘れ介護相談室」**  
 認知症の人と家族が励ましあい助けあひながら、認知症になっても安心して暮らせる社会をめざして活動されている「認知症の人と家族の会」では、認知症介護経験者が親身になって相談に応じています。  
 フリーダイヤル 0120-294-473 毎週 月・水・金曜日（祝日休み）10:00～15:00  
 津市市笠山七丁目B-13B（県元長寿社会福祉センター内）
- もの忘れサポートセンター-しが／滋賀県若年認知症コールセンター-**  
 もの忘れサポートセンター-しがでは、認知症の医療と介護について、認知症の本人や家族、保健・医療・福祉の専門職等からの相談に応じています。また、「滋賀県若年認知症コールセンター」として若年認知症の相談にも対応しています。  
 電話 077-582-6032・090-7347-7853 守山市南田町2-1-303（医療法人藤本クリニック内）
- 認知症疾患センター**  
 認知症疾患医療センターでは、保健医療・介護の機関等との連携を図りながら、認知症の専門医療相談、認知診断、周辺症状と身体合併症に対する急性期治療を行っています。  

|                        |                 |                 |
|------------------------|-----------------|-----------------|
| 瀬川病院認知症疾患医療センター        | 大津市玉野湯4-21      | 電話 077-543-1441 |
| 琵琶湖病院認知症疾患医療センター「ピスタリ」 | 大津市坂本一丁目8-5     | 電話 077-578-1943 |
| 水口病院認知症疾患医療センター        | 甲賀市水口町坂本二丁目2-43 | 電話 0748-63-5430 |
| 豊岡病院認知症疾患医療センター「オアシス」  | 大上郡豊岡町大字1丁目12   | 電話 0749-35-3011 |

発行：滋賀県健康福祉部元気長寿福祉課 〒520-8577 大津市南田町四丁目1-1 電話 077-528-3522  
 企画・編集：もの忘れサポートセンター-しが／滋賀県若年認知症コールセンター  
印刷代：印刷費とは別に発行クォーターリットル（100部）印刷費がかかります。発行先住所：本誌編集課設置の法人事務所

発行日：2024年10月

若年認知症リーフレット

# 若年認知症ってなに？



若年認知症を理解し  
 みんなで支えていくために

## 滋賀県

# 若年認知症の人を

若年認知症に関する問題は、本人が家庭や社会で中心的な役割を果たしている人という意味で、高齢者の認知症より深刻かもしれません。診断が遅れることにより、治療や支援体制に遅れが出てしまうと、せっかくの「本人の能力」を生かすことができなくなります。本人だけでなく、家族を支えるサポート体制など、医療、福祉、行政、企業、地域が手を携え、さらに充実させていきたいものです。



## 若年認知症とは

若年認知症とは、65歳未満で発症する認知症を言います。高齢者の認知症と、病理学的に違いがあるわけではないと言われていますが、若年認知症は年齢が若いため、社会的、家庭的問題を多く抱えており、就労の問題など、多くの支援が必要とされています。働き盛りの世代ですら本人だけでなく、家族の生活への影響が大きいにも関わらず、その実態が明らかでなく、支援も十分ではありません。



## 早期発見が大切な理由

ほかの病気と同様、認知症も「早期発見」が大変重要です。

- 第1の理由**は、「治療すれば治る認知症」や、うつ病などの「見せかけの認知症」を発見するきっかけになるからです。
- 第2の理由**は、いち早く治療を開始することによって、病気の進行を遅らせることができるからです。
- 第3の理由**は、心の支えや、今後の生活を考える上で、必要な情報を備えておくことができるからです。

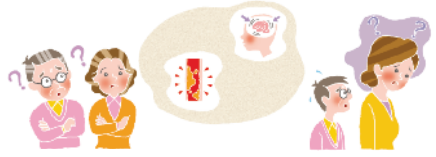


- \* 就労中であれば、職場内の混乱を最小限におさめ、本人の就労期間を延長することが可能になります。早くに診断をされ、疾患に対する理解に基づいて、職場として可能な支援を行えば、本人にとっても、職場にとっても、負担が軽減されます。
- \* 早期診断によって、本人は自分の病態を理解できる間に自分の病気を知ることができ、場合によっては将来の生活の予定を立てることもできます。本人や家族が、医療機関と早くつながることにより、じっくりと話し合ってから、今後の生活環境を整えていくことができます。

# まわりの人が認知症についての理解を深めることが大切です。

## 認知症はどのような病気なの？

- 認知症と、年相応のもの忘れとは別のものです。
- 認知症は、脳の神経細胞が壊されていくために起こります。
- 高齢者だけでなく、原因によっては、若い世代にも起こりうる病気です。



## 認知症の主な病気と症状は？

認知症の原因はひとつではありません。病気の種類によって、出てくる症状にもかなり違いがあります。それぞれに、どのような症状が現れるのか、原因となる病気によって治療や介護の方法も変わってきますので、それを知っておくことは大切です。

### 主な4つの認知症について解説します。

- **アルツハイマー型認知症**  
記憶障害を中心とした認知症で、徐々に進行します。もの忘れや、できていたことがうまくできなくなる実行機能障害、時間の感覚がわからないといった症状がだんだんと目立つようになりま。
- **脳血管性認知症**  
脳梗塞や脳出血によって起こる認知症の総称です。神経細胞が広い範囲で壊されるアルツハイマー型認知症と異なり、障害された部分とまったく正常な部分が混在し、できないことと驚くほどできることがあります。症状は記憶障害以外に、無気力、無関心、感情の不安定さなどが目立ちます。
- **レビー小体型認知症**  
動作が緩慢になる、小股で歩く、顔の表情が乏しくなるなどのパーキンソン病のような症状と、幻視や症状の変動が目立つことが特徴の認知症です。最近、診断方法の進歩によって、比較的多い病気であることがわかってきました。
- **前頭側頭型認知症**  
初期には、もの忘れよりも人格の変化が目立ちます。例えば、会社で仕事ができるくらいの知的能力があるにもかかわらず、周囲の人に対する配慮に欠けたり、はぐらかすような行動があったりします。また、特徴的な症状として、同じ行動を繰り返すという常同行動があります。

「まわりの人が認知症の正しい理解を深めることが大切です。」



## 認知症の症状は？

### 認知機能障害

- **記憶障害**  
本人が最も自覚しやすく、家族も気が付きやすい症状です。初期には、覚えられないという訴えが目立ちます。
- **実行機能障害**  
「何かをしようと思う」「計画を立てる」「順序立てて行う」や「やり続けて、やり遂げる」など、新たな課題を実行に移す時に必要な能力が失われます。
- **見当識障害**  
時間、場所、人物の見当をつけ、自分の状況を理解する能力が障害されます。
- **失行**  
運動機能に麻痺などの障害がないにもかかわらず、以前はできていた「目的をやり遂げるための動作」ができない状態を言います。
- **失認**  
視力に異常がないのに、対象物を認識したり区別したりできなくなることや、人の顔を認識できないことなどを言います。
- **失語**  
認知症の初期に見られる失語は、スムーズに物の名前が出てこないため代名詞が多くなることで、会話がまどろっこしくなります。



### 行動・心理症状

行動・心理症状(BPSD)とは、認知機能障害を背景に、周囲の状況(関わり方、環境の変化など)に対する事実認識、勘違い、判断違い、身体の状態(感染、脱水、便秘など)や心理症状などによって現れる徘徊や興奮などの行動障害、幻覚や妄想などの心理症状のことです。認知機能障害の改善は困難ですが、行動・心理症状は、押し方やまわりの環境を整えることによってある程度改善したり、予防したりすることができます。



## 認知症の治療は？

認知症の治療は大きく分けて二つあります。「薬による治療」と「薬を使わない治療」です。これらを組み合わせることで、認知機能障害の進行を遅らせるとともに、行動・心理症状をできるだけ予防します。

### 薬による治療

認知症を完全に治す薬はまだ開発されていませんが、研究は日々進んでいます。病気の種類、個々の症状に合わせて薬をうまく使うことで、本人の生活能力を長く維持することができると、介護する人の負担軽減、介護費用の低減にもつながります。

### 薬を使わない治療

その人が持っている機能を適して働きかけることにより、認知機能の低下や身体機能の低下を防いだり、精神的にも安定させることをめざします。本人に安心がもたらされるので、行動・心理症状を防ぐことができたり、認知機能障害にも有効に働きます。

# 本人や家族のことは

## 理解して本人や家族を支えよう

**Aさん(本人) 職場の理解を得ながら、できるところまで仕事を続けたい**  
受診のきっかけになったのは仕事上でのトラブルが増えたからです。それでもできる限りまで仕事は頑張りたいと思います。受診を勧められた時は正直なところでも落ち込みましたが、今は、病状とわかり、正面に話し合いながら仕事の負担軽減も考えてもらって続けています。定年までを目標に、迷惑をかけないところまでやっていきたいと思っています。

**Bさん(本人) 怖がらず、早く専門医の診断を受けて！**  
仲よくしていた友人が受診を勧められました。同じことを尋ねる私をみて、今までと違うと感じていたそうです。最初は何て失礼なことを…と腹立たしくも感じましたが、そのうち自分でも意識をするようになりました。受診することは怖かったのですが、今は、主治医の先生や家族、友人にも支えられながら気持ちも楽になりつつあります。もしも、同じ立場の方がおられたら、早く診断を受けて下さいと伝えたいです。動き出したら光が見え始めたのですから。

**Cさん(奥さん) 周囲の理解があれば、前向きに暮らせます。**  
夫は若くて身体は元気なものですから、周囲からの理解が得られずつらい思いをしました。周りからはサボっているように見えたようです。病名を伝えてもまだ理解してもらえない時もあります。もっと、この病状を知ってもらい、理解してもらえたなら、今よりも少し前向きに元気になって暮らせるだろうと思います。

